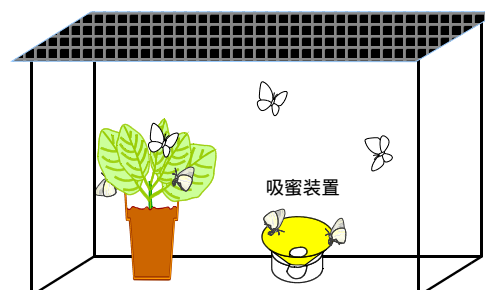


チョウを育てよう

3年	吸蜜装置を使って2～3日は飼育できる
	成虫の飼育と観察

成虫の体のつくりは、飛翔するために適したつくりという観点で考えるとわかりやすく、暮らし方では幼虫時代の這う暮らしから飛ぶ暮らしへの変化、ということになります。



1 成虫の飼育と観察

大きめの水槽にキャベツの苗や切り花，吸蜜装置を入れ，羽化した成虫を入れる。

成虫の形態観察

最も多くの成虫が羽化した日に行う。一人ずつ成虫を持たせ，脚の出ている部位が胸部であることを中心に成虫の体のつくりを観察する。

観察できること	考えたり，不思議に思うこと（例）
<ul style="list-style-type: none"> 脚が6本であり，脚の出ている胸部から4枚の羽も出ている。 頭には大きな目と触角がある。 口はストロー状で普通は丸まっているが，伸ばすと長い。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼虫と形態が全然違う。なぜだろう？ 生活の仕方が違うことから考えさせたい。幼虫はあまり動くことなく，食草の上でただひたすら食べ，体を大きくしている。成虫は飛翔し，子孫を残すための行動をする。飛翔するために体を軽量化し，花の蜜という高カロリーの食事をする。 なぜだろう？

吸蜜装置の作製

脱脂綿に砂糖水を染み込ませたものでは，自発的な吸蜜はなかなか起こりません。ここで紹介する吸蜜装置は，モンシロチョウが好む黄色の花を人工的に作ることで自発的な吸蜜を可能としたものです。

- 黄色の画用紙で直径7～9cm程度の円を作り，図のように中心部に穴と切れ目を入れる。切れ目の部分で左右を重ね合わせてお椀状にする。
- 中心部の穴に脱脂綿を入れ，10%砂糖水の入ったシャーレに浸す。1枚のティッシュペーパーをお椀状の黄色の画用紙全体にのせ，砂糖水を十分にしみ込ませる。

